



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



第25回 (通算61回) 通常総会開催

服部 文男

2025年3月29日 (土) 10時30分から、東京都港区立新橋生涯学習センターにてNP0日口交流協会第25回 (通算61回) 通常総会が開催されました。

服部会長の開会宣言のあと議長選出があり、会員の推薦により会長が議長に指名されました。

次に出席者数の報告を江本事務局長から報告があり、出席者24名、書面表決48名、表決委任47名、計 119名。正会員数は170名で日口交流協会定款27条に定める定足数 (正会員数の3分の1以上) に達しており、総会成立確認を宣言されました。同定款30条に基づき、議事録署名人の選出が行われ、日向寺淳一氏 (専務理事) 並びに江本大輝氏 (事務局長) が選任されました。

審議事項では、第1号議案「2024年度事業報告」は日向寺専務理事より説明がありました。日本とロシア関係の難しい

今日においても当協会の会員数は昨年より14名増、政治や外交に関わらない方針のもと、草の根的な市民間の交流はこれまで通り継続、加速しており、また後任のノズドリエフ特命全権大使が赴任されて2025年2月には60周年記念パーティーが大使館で開催される、との報告もありました。具体的には文化交流イベント (国内及びイルクーツク、シレホフへの文化交流団の派遣)、語学教育、バスツアーなどを積極的に開催、花火大会も5年ぶりに実施しました。



第2号議案「2024年度会計収支決算報告」は小嶋常任理事より説明があった後、引き続き監査報告を吉田臣吾監事よりあり、第1号議案、第2号議案、監査報告については拍手をもって承認されました。

続いて、第3号議案「2025年度事業計画 (案)」では当協会が創立60周年を迎えることから再度、記念パーティー開催の計画があることなどを説明。継続的にイベントを開催しながら会員・非会員の参加を促して協力者を増やし、青年世代の活躍を支援、得意分野を活かすなど時代に合わせた新たな活動を展開できるように意見交換する。協会誌、ホームページなどの媒体による情報共有、外部への発信活動等により新規会員獲得に活用するなどの計画案が提示されました。具体的には各担当からの計画案が提示されています。

第4号議案「2025年度事業計画会計収支予算 (案)」についても江本事務局長から説明があった後、第3号議案並びに第4号議案も拍手をもって承認されました。

以上により日口交流協会第25回 (通算61回) の通常総会は11時30分に閉会となりました。閉会後は、会員懇親会として昼食会が例年通り開かれています。 (会長)

お知らせ

●ロシア語教室生徒募集!

経験豊富なロシア人講師陣がレベルに合わせて指導してくれます。プライベートオンライン授業も行っています。講師は経験豊かなロシア人講師陣です。見学も1回のみ可能ですのでお問い合わせください。こちらの定期コースは会員の方のみに限ります。

●ロシア語の泉 (14)

日時: 2025年5月11日, 6月15日, 7月13日 (日) 13:30~16:00

場所: 事務所またはオンライン

費用: 会員7,000円、一般8,500円 (全3回分)

講師: スニコ・タチヤナ (言語学者)

●ロシア料理教室 (1)

日時: 2025年5月24日 (土) 10:00~13:00

場所: 田町「リーブラ」料理室

ペリメニなどのロシア料理を体験、試食します。

●日本の家庭料理教室 (2)

日時: 2025年5月31日 (日) 10:00~13:00

場所: 田町「リーブラ」料理室

●キルギス料理講習会 (2)

日時: 2025年6月22日 (日) 13:00~17:00

場所: 田町「リーブラ」料理室

*料理講習会には、布巾、ハンドタオル、エプロン、持ち帰り容器をご持参ください。

●東郷和彦氏講演会

日時: 2025年6月14日 (土) 講演会終了後に懇親会有り。

*変更等の可能性もありますので、必ず事前にメール、FAXなどでお申込みください。

お申込み、問合せ: NP0日口交流協会事務所

E-Mail: nichiro@nichiro.org Fax: 03-5563-0752

お願い

NP0日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。なお、寄付とわかるようにお名前の前に番号「01」と入れてください。

振込先: 郵便口座 00160-9-66486、加入者: 日口交流協会

連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail: nichiro@nichiro.org



創立60周年パーティーに参加して

安部 花子

2月28日、在日ロシア大使館での日ロ交流協会創立60周年記念パーティーに参加しました安部と申します。

大使館の中に入ったことのない私にとって、当日は見るもの全てが新鮮でした。建物のドアを開けると、日本人女性の平均身長はあろうかという巨大なチェブラーシカ人形がお出迎えし来場者の期待感を高めます。階段を上がると、そこに広がっているのはシャンデリアが輝く大広間。ロシア大使館の専属シェフが腕によりをかけて準備してくださったロシア料理の数々が、美しく色とりどりに、食べきれないほど並んでいます。来場者は一同、その美しい光景に目を輝かせながら、たくさんの写真を撮っていました。

会場正面の壁にはモスクワのモチーフが一面に描かれ、日本とロシアの友好を象徴する大きな両国の国旗が交差して飾られていました。その装飾を背景に、会のはじめからおわりまで次々と披露される、ロシア人と日本人それぞれの文化の踊りや歌、楽器演奏。まさに文化の贈りあいといった様相で、観客を飽きさせない素晴らしい構成でした。

中でも特に印象的だったのは、ロシア大使館付属学校の生徒さんたちによる歌と踊りです。ロシアの美しい民族衣装に身を包んだ子どもたちが現れた瞬間歓声が上がり、コンサートが見やすい位置へ皆我先にと殺到。ロシア語が分からない私はただその美しい歌声をうっとり聴いていましたが、合唱の歌詞の一部が日本語になっており、ロシア語が分からない日本人にもメッセージが伝わるように工夫されていました。緊張している子もいましたが、それでも一生懸命歌って踊って歓迎の気持ちを表現してくれるその様子を見て、昨年10月



ロシアの方々の作品



(生け花、友禅) 展示の一部

に文化交流で訪れたイルクーツクで、現地の子どもたちが歌と踊りでおもてなしをしてくれた時のことをふと思い出し、涙が出そうになりました。

どこであっても変わらない、これがロシア流のあたかなおもてなしなのだ——まだ小さな子もたくさんいて、これから末永く交流が続いていく日本とロシアの明るい未来を見せてもらえたような気持ちになり、大変印象深い思い出になりました。私がロシア大使館に初めて訪れたのは2016年でしたが、ずっと憧れていたロシアを人生初の一人海外旅行の行先に定めビザ申請に向かうも、なんとなく物々しい雰囲気では最初は少し怖かったのを覚えています。その時はまさか、大使館の中でこんなふうに過ごす日がくるなんて想像もしていませんでした。

交流協会の活動に携わってきたこの約10年間、料理教室やイワン・クパーラなどのイベントに参加するたびに顔見知りが増えたくさんの友人を作ることができました。そんな彼らと一緒に、彼らが普段過ごしているロシア大使館の敷地の中で、日ロ友好の志をもつ仲間たちと協会創立60周年を祝うことができ大変嬉しく思いますし、会場使用の許可のみならず素晴らしいおもてなしで惜しみなく来場者を歓待してくださったロシア大使館の皆様のご厚意に、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。スパシィーバ・バリショイー(本当にありがとうございます)！70周年も80周年も是非またここで同じようにみんなでお祝いできるよう、これからも交流活動を楽しんでいきたいと思っています。

<祝辞>

日ロ交流協会60周年おめでとうございます。服部会長はじめ役員の皆様、親愛なる友人たち、NP0日ロ交流協会のメンバーの皆さん！

ロ日協会は、貴団体設立60周年の栄光ある記念日を心よりお祝い申し上げます！これは素晴らしい日であり、私たちの国々の人々の間の友情を強化することに人生を捧げてきた皆さんにとって、本当の祝日です。これはまた、ロ日協会の歴史が日露関係協会の歴史と密接に結びついているため、私たちにとっても重要な日です。

貴協会は1965年2月に「日ソ交流協会」という名前で設立されましたが、1993年8月のソ連崩壊に伴い「日ロ交流協会」に改名され、両国市民のレベルでロシアとの友好関係の発展の新しい段階に入りました。

今、世界は困難な時期を迎えています。そして、私たちは残念ながらロシアと日本の関係が冷えていることを目の当たりにしています。今こそ、壊れた絆を回復するために結ばれる人々の外交が一層重要です。両国の公共団体や熱心な人々の長期的な無私の努力によって達成された貴重な成果を失ってはなりません。両国の間に全く新しい関係を築く必要があり、壊れた古い関係を置き換えることが求められています。そして、この中

で重要な役割を果たすのが人々の外交です。新しい絆の基盤は、ロシアと日本の友好団体の成果や、ロシア人と日本人の「草の根」レベルでの個人的つながりに大きく依存するでしょう。

近年、貴協会は「草の根」レベルでロシアとの文化的および人道的なつながりを積極的に発展させており、私たちの支部と密接にコミュニケーションを取り、日本を愛するロシアの人々に茶道、折り紙、墨絵、生け花、日本料理等々の日本文化を紹介する文化プログラムを実施しています。このようにロ日協会のメンバーを温かく支援してくださり、心から感謝申し上げます。特にロシアにとって困難な年においてはなおさらです。このような協力は、私たちの国民間の相互理解、友情、信頼を強化することに寄与します。そして、私たちは新しい接触に対してオープンです！私たちの協会間のつながりの発展と強化は、私たちの国々の信頼関係の復活に寄与し、私たちの国民をより近づけることができるでしょう。

ロ日協会は、日ロ交流協会のさらなる成功と繁栄を心から願っており、協会のメンバーの幸福、福祉、健康を祈っています！親愛なる友人たちに幸運を！

2025年3月9日

ロ日協会会長 G. ドウトキナ

中央委員会議長 M. キリチェンコ

書記長 E. クルチーナ



「遊布展示会」参加

千葉 麻里

2025年1月21日（火）、池袋の「オレンジギャラリー」で開催された『遊布展示会』に便乗させてもらいました。いつもなら前年11月頃にある会ですが、会場の都合で翌年に持ち越されたそうです。

日本の家庭料理講習会で講師をお願いしている小野田正子先生が中心となり、手先の器用な仲間たちで手作り品を展示即売する恒例の展示会です。小野田先生のご縁で、協会のマトリョーシカ絵付け教室の作品や事務所に残されているロシアの民芸品を置かせてもらい、新聞も置いて交流協会の紹介もさせてもらおうと会場の片隅を貸していただきました。この会は20、21日の二日間開催されますが、こちらの都合で火曜日の一日だけの参加です。

マトリョーシカ教室のエレーナ先生に提供してもらった、ロシアのホフロマ塗のカップや紙ナプキン立てが華やかな色どりを添えていました。皆さんの作品は、陶芸、カシミアのマフラー、バッグ、きものリサイクルの服、革製品、小物など、いずれもプロ級の物ばかりで、毎回、拝見するだけでも楽しみです。

11時から会場に入ると、思いがけず中学校の同級生に会い、数年前に田町の教室で制作したマトリョーシカをお付き合いで買ってもらったという幸運に恵まれました。偶然にも小野田先生と共通の友人だったのです。世間は狭い…

昼間、学校での授業を控えていたため、数時間、以前会員だった熊倉さんに店番を頼み、また飛んで帰って7時まで参加させてもらいました。マトリョーシカが好きで見に来てくれた方、ホフロマ塗の独特な色あいに目を見張る方、昔、ロシアを旅行された方が「日口交流」紙を手にして懐かし気に語ったり…

様々な人の縁によって交流協会の活動に参加してもらったり、応援してもらったことの多い昨今です。草の根の会という性格上、色々な方々の無償の助けに頼りながら継続できていることに感謝しかありません。

(副会長)



ままならぬ旅行業

畔上 明

半世紀近くを旅行業に携わってきた身にとって、モスクワ駐在を含む90回程のソ連/ロシアを中心とする渡航、アテンドした4桁を越える数の顧客の方々の思い出、そして、共に仕事をしてきた仲間たち、同じ業界内の様々な人間模様が走馬灯のように頭の中を駆け巡ります。

20代半ばにヨーロッパ放浪から日本へと戻った後、30代前半までの5年間の職場であった「日ソ旅行社」は、旅行業というものの学校でもありました。1964年の旅行自由化を踏まえ、1966年に設立されたソ連・東欧への渡航を専門に扱っていた「日ソ旅行社」は、1905年生れの新川三十郎氏という高齢社長の下、三十代前半のKK課長、SS課長補佐、そして私とほぼ同世代数名のスタッフにより、Telexによる現地手配の仕入れ、航空券発券、顧客との対応、ビザ取得のための大使館通い、タイプライターで渡航書類を作成する一連の作業を学んでいったのでした。

東京帝大の同級生であった元代議士の和田敏明(1905-90)氏に押され社長を務めた新川氏は、ソ連との関わりは当初全くの素人ながら、甲状腺肥大の病気持ちに堪え必死に活動されてはいました。しかし、社員待遇が思うようにいかず、ケチコフ・クサイスキー等と揶揄されながら、結成された小組合と向き合うかたちで退いていったのでした。同業他社としては、1980年に「通商航空」に吸収された「トラベル・センター・オブ・ジャパン」、アエロフロートの代理店として1971年に設立した「プロコ・エア・サービス」、ソ連専門の老舗1961年設立の「日ソツーリストビューロー」(ソ連崩壊後「ユーラス」に改編)、山下新日本汽船(後の商船三井)傘下「ワイエス航空」(ワイエストラベル)、また日ソ旅行社の元スタッフが1971年に設立した「ワールド航空」、1975年設立の「トラベル世界」(2013年に倒産)などとの関わりを持つこととなりました。

40歳から67歳までの28年間勤務したツアー・オペレーター「ツムラーレ・コーポレーション」は、20代半ばの太田不二夫氏がスウェーデン人のルンネ・ツムラーレ(古語でイルカの意)氏を会長に立て1972年に北欧専門旅行社としてコペンハーゲンに設立した会社です。東京支店にて、日本の旅行会社に向けて私は北欧だけではなく、東欧、ロシアの現地旅行の手配を請負うセールス・マネージャーとして動き回ったのでした。

取引先のJTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、ジャルパック、合併した阪神航空と阪急交通社といった大手を始め、消えていった「地球の旅」「新日本トラベル」「国際ロータリー」「四季の旅」等のスタッフとも親しくさせて頂き、外側から旅行会社の努力や苦悩を見ていくこととなりました。

それぞれの企画担当者の思いは、コロナ禍、そしてウクライナ戦争という過酷な事態に一体どう向き合っていたであろうか、七転八倒しながらも新しい展開を繰り広げているか、気になるころでした。

戦争、内乱、治安の不安な状況は勿論のこと、地震や津波といった天災、原発事故などの人災に遭遇するにつけ、

旅行業界に生きる者たちの存続さえ脅かされる過酷さ。旅行というのは、つくづく平和でなければ成立たないの思いが身に沁みています。



(写真: ソ連国営旅行社「インツーリスト」本社での翌年の契約プロトコール) (中央: 「日ソ旅行社」新川三十郎社長 1980年10月)



小さな草の根交流

―サマーラからのお客様―

3月19日にサマーラから露日協会サマーラ支部の日本愛好家の有志が来日。外国語の学校のワレンチン校長先生、日本語のワレンコ先生と学生4人からなる6人で、日本人の学生との交流を希望していました。そこで、ロシア語劇を学んでいる学生さんたちに声をかけたところ、外語大の3名の方々が名乗りをあげてくれて21日に浅草観光のお手伝いをしてくれました。浅草橋のスシローでランチを楽しみ、学生さんたちもロシア語での実践を積んでもらえたようです。

24日には岡崎副会長に帝京大学八王子キャンパスを案内していただきました。春休みでしたが、短縮営業している学生食堂でランチをとり、外国人留学生との学内異文化交流の拠点である国際交流センター訪問、その後、帝京大学総合博物館で展示を見学、大教室で教室内の設備を紹介して、最後にソラティオスクエア18階からの展望を楽しんでもらいました。

バスで多摩センター駅に戻り、駅の近くのサンリオピューロラ



帝京大学の大教室にて

ンドに寄りました。皆さんには記念に帝京大学の今治タオルとクリアファイルのセットをお持ち帰り頂いたそうです。皆さん、東京では十分に目的を果たされたようで、後日、感謝のメールが届きました。

―墓参のこと―

3月初めにモスクワ国立大学のコルチャーギナ先生からメールが届きました。22日に来日する際、2022年1月24日に100歳で亡くなられた坂本斐子さんのお墓参りをしたい、というものでした。

坂本さんは永年協会の常任理事として様々な活動をし、多くの人々に慕われてきました。コルチャーギナ先生たちモスクワ大学の先生との親交も深く、協会の協力会員として入会してもらなうなどロシアの方々との橋渡しをされてきました。大使館、通商代表部の皆さん方も、亡くなったときには深く悼まれたことは言うまでもありません。

3月25日、坂本さんの姪御さん、というより娘さんに近い郡司様にご案内いただき、コルチャーギナ先生、先生のお孫さんたち、岡崎副会長と千葉の6人で、坂本さんのご自宅の裏手にある共同墓地へお参りに行きました。墓石には「和」と刻まれてあるだけで名前はなく、いかにも坂本さんらしいと思われました。お花を供えて線香を炊き、コルチャーギナ先生が持参されたかわいらしい置物を飾り、手を合わせてきました。コルチャーギナ先生の目には光るものがありました。

皆で坂本さんとの多くの思い出を語り合うと、どれだけ人に尽くされた方か、お互いにまた改めて知ることになりました。コルチャーギナ先生は、ロシアの友人たちにも伝えられます、と喜んで帰られました。郡司様は、またお参りの際にはどうぞ声をかけてください、と。所縁の方々とぜひまた訪れたいと思ひながら、墓地を後にしました。

(広報部)

コインランドリー

キタヤマ 忍

ロシアから届く旅や暮らしの情報の中で気になっていることがある。それはコインランドリーだ。あの頃に欲しかったコインランドリー。調べてみると2010年頃から少しずつ増えていたようで、現在は全国展開するスティールカとモスクワ市内・近郊で存在感のあるサンプラチカを筆頭に、各地にじわじわと広がっている。スティールカに至ってはこの4月現在124市町に300店舗、内フランチャイズは約200店舗、さらにいくつかの店舗はオープン間近だ。

TVで洗濯のプロや化学の専門家がコインランドリーの使い方や良し悪しを検証する特集があったり、インフルエンサー達がネットで紹介していて、なんだかんだと広告の形は日本も世界も同じで面白い。

業務用洗濯機は主に韓国のLGが採用されているようで、洗濯と乾燥は概ね別になっている。日本で現在主流の「洗濯から乾燥まで一気にお任せ式」に慣れてしまうと入れ替えは面倒だが、洗いと乾燥それぞれの時間調整ができるのは魅力的だ。洗剤や柔軟剤は自分で投入するのでお気に入りを使用するか、またはコインランドリーの企業が理想の仕上がりを追求したオリジナル洗剤もおすすめだ。

価格はモスクワで洗濯のみ5kg約400円からもあるようだが、急速な値上がりで地域差も相まって、各企業が様々に取り組んでいる。モスクワでは洗濯を取りに来てくれて24時間以内の都合の良い時間に届けてくれる代行サービスもある。少々お高いもののアイロン掛けもお任せできるプラ

ンもあるのは非常にありがたい。

洗える物を見ていて私が注目した洗濯の一つがダウンジャケットだ。なぜなら、ダウン専用ボールが用意されている店舗があったのだ。テニスボールと一緒に入れて乾燥するとふわふわに仕上がる、と以前TVで見た事をぜひ試してみたい！そしてもう一つはテントだ。日本ではテントは撥水加工されているため不可となっているが、前述のスティールカでは可能になっている。材質はさほど変わらない、いや変わらないはずなのだが、洗いだけならOKということなのか？好奇心がうずく。

「卒業式や結婚式のドレス、各種制服もお手頃にきれいに！」あの広い大地に爽やかな季節がやってくる。コインランドリーの案内を見て、季節の光景が懐かしく思い起こされた。

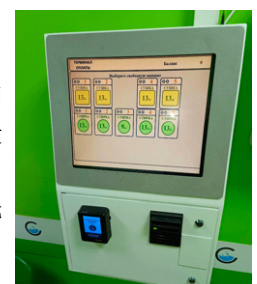
(ビデオグラファー)



上段が乾燥、下段が洗いに
なっている



店内の快適さも工夫されている



使用する機械を選んでカードで支払い